

高等学校「家庭科」(専門教科) 学習指導要領改訂のポイント

- 原則履修科目：「生活産業基礎」「課題研究」
- 科目構成：「被服製作」を「ファッション造形基礎」と「ファッション造形」に再構成するなど、現行の19科目から20科目で構成
- 主な改善事項：
 - ・消費者ニーズの的確な把握や必要なサービス提供等を行う企画力やマネジメント能力の育成への対応
 - ・生活文化の伝承や消費，環境への対応
 - ・職業人として求められる倫理観の育成や食の安全等への対応

■教科「家庭」の科目構成■

改 訂	現 行	備 考
生活産業基礎	生活産業基礎	
課題研究	課題研究	
生活産業情報	家庭情報処理	名称変更
消費生活	消費生活	
子どもの発達と保育	発達と保育	名称変更
子ども文化	児童文化	名称変更
生活と福祉	家庭看護福祉	名称変更
リビングデザイン	リビングデザイン	
服飾文化	服飾文化	
ファッション造形基礎	被服製作	分類整理
ファッション造形		
ファッションデザイン	ファッションデザイン	
服飾手芸	服飾手芸	
フードデザイン	フードデザイン	
食文化	食文化	
調理	調理	
栄養	栄養	
食品	食品	
食品衛生	食品衛生	
公衆衛生	公衆衛生	

■各科目の改善事項■

- 「生活産業基礎」において、消費者のニーズを把握し、生活の変化に対応した商品・サービスの企画・開発から販売・提供する内容を扱うことを明治するなど内容を充実
- 「消費生活」において、消費者と企業や行政とのかかわり及び連携のあり方等に関する内容を取り扱うことを明治するなど内容を充実
- 「リビングデザイン」において、日本と世界の住生活と文化にかかわる内容を充実
- 「服飾文化」において、日本と世界の服飾にかかわる内容を充実
- 「消費生活」において、消費生活と環境とのかかわりや持続可能なライフスタイルの形成に関する内容を充実
- 教科の目標に、生活産業を取り巻く諸課題を倫理観をもって解決し、生活の質の向上と社会の発展を図る能力と態度を育てることを明記
- 「食品」において、食品の表示にかかわる法規や制度などを取り扱うことを明示し、食品を適切に選択、活用して食生活の充実向上を図る内容を充実

■各科目の目標（科目抜粋）■

- 「生活産業基礎」：衣食住、ヒューマンサービスなどに関する生活産業や関連する職業への関心を高め、必要な知識と技術を進んで習得し活用する意欲と態度を育てる。
- 「生活産業情報」：生活産業における情報の意義や役割を理解させ、情報の処理に関する知識と技術を習得させるとともに、生活産業の各分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。
- 「子どもの発達と保育」：子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。
- 「生活と福祉」：高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活の質を高めるためとともに、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。
- 「リビングデザイン」：住生活と文化、住空間の構成と計画、インテリアデザインなどに関する知識と技術を習得させ、快適な住空間を計画し、デザインする能力と態度を育てる。
- 「ファッション造形基礎」：被服の構成、被服材料の種類や特徴など被服製作に関する知識と技術を習得させ、ファッション造形の基礎的な能力と態度を育てる。
- 「ファッション造形」：デザインや着用目的に応じたファッション造形の知識や技術を習得させ、ファッション製品を創造的に製作する能力と態度を育てる。
- 「フードデザイン」：栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得させ、食生活を総合的にデザインするとともに食育の推進に寄与する能力と態度を育てる。